

# 事務局便り

令和5年3月10日

## \*3月28日(火) 春期研修会 オンライン開催 申込締切 3月17日(金)

今回は ICT 活用をしながらの研修会です。各自のパソコンで入っていただくことをおすすめします。(スマホやタブレットではなく) オンライン開催にて人数の上限は70名とまだまだ余裕があります。ぜひご参加ください。

◎詳しくは、同封の案内チラシをご覧ください。

## \*令和5年度 研究大会 講演講師決定！！

月日：令和5年8月8日(火) 9日(水)

場所：家庭クラブ会館2階ホール

方法：ハイフレックス(対面参加またはオンライン参加)

講演講師：学習院大学文学部 教授 秋田喜代美先生

### 講演テーマ：これからの家庭科教育に期待すること(仮)

秋田喜代美先生には、令和3年度1号の機関誌にも「新たな時代の教育に向かって：ウェルビーイング実現のための教育」をご寄稿いただいております。今回は会場にお出でいただき、家庭科教育に期待することをこれまでのご研究の成果を踏まえてご講演いただくこととなりました。家庭科の保育領域についても触れて頂く予定です。私は他の研究会で、子どもの学ぶ姿を温かく見取る先生のご発言に多くのことを学びました。今回は、教育全般と家庭科教育にも触れてご講演いただけるのでとても楽しみです。(8月8日午後予定)

## \*令和5年度会費納入について

令和5年度の会費(6,000円)を納入ください。公費でお支払いの場合は、同封の書類をお早めに事務担当者にお渡しください。

本協会は、皆様方の会費で運営をしております。その年度の活動を推進するためにも、なるべくお早めに、できれば研究大会前にお納め頂きますようお願い致します。

納入の際、機関誌等をお届けしている宛名ラベルの右横の()内の○○-△△が会員番号ですので、その番号をお名前や学校名の前に入れていただくと助かります。事務担当者様にも是非お伝えください。

転勤等異動の方は、新たな会誌送付先を4月中に文書(Faxまたはメール)にてお知らせください。また残念なことですが、退会を希望される方は、3月末日(遅くとも4月末日)までに退会届(ホームページにあります)をお使いの上、Faxまたはメールにてその旨をお知らせください。

会費納入についてご不明の点がありましたら、事務局までご相談ください。

## \*メールマガジン始めます！！ 配信予定:3月下旬から

会員の皆様方に、諸連絡をする手段が、年5回の事務局便りとホームページでの連絡でした。最新の情報をお届けする手段として、メールマガジンを始めたいと思います。ZKK事務局から、研究大会・研修会の情報の他、賛助会員様からの有益な情報を配信したいと考えております。右のQRコードからご自身のメールアドレスをご登録ください。なお、登録後の変更・退会等は事務局までご連絡ください。



## \*編集後記 機関誌 5号「18歳成年を迎えて」

今年の高校3年生から、18歳成年を迎えることとなりました。同じ学年でも4月に成人になる生徒もいれば3月にやっと成人する生徒もいるという高校3年生の現場はどのような状態だったのでしょうか？

荒井紀子氏には、消費者教育以外での原稿執筆をお願いし、「生活リテラシーを育む」という内容をわかりやすく解説していただきました。18歳成年にむけて身につけさせたい生活リテラシー、授業でどのように組み立てていったら良いのか？が書かれています。一人の人間を育て上げるという教育の視点から、家庭科教育はなくてはならない教科であると再確認でき、元気をもらいました。

消費者庁消費者教育推進課の米山眞梨子氏からは、消費者トラブルに巻き込まれないようにする消費者教育だけでなく、消費者市民社会の一員、持続可能な社会の作り手としての教育にも取り組むことを行政としても推進していることを述べていただきました。参考になる消費者庁のサイトが紹介されています。

弁護士の遠藤郁哉氏は、具体的な事案をもとに、「啓発型教育の限界」として、消費者被害から身を守る「3つの力」が述べられています。そして、その力は消費者市民社会の実現にもつながるとしています。この「3つの力」を自分自身も身につけたいと思いました。

日高庸晴氏のシリーズ記事は、今号で終了となりました。最後に「先生の一言で子供の人生が変わります。是非その一歩を踏み出してください。」とまとめていただきました。4回のシリーズ記事を読み、自分自身の誤認識・認識不足を痛感しました。子どもたちに対応する教職員としてしっかりと理解しておくことが重要と感じました。

機関誌「家庭科」をお読みいただき、授業づくりの参考にいただければ幸いです。

## \*シリーズ～全国家庭科教育協会の歴史～(2)創立の経緯 ②日本家政学会との関係

第1回総会の後援をしていた家政教育社については前回紹介いたしました。今回は、もう一つの後援団体である日本家政学会について紹介いたします。

機関誌「家庭科」アーカイブに掲載のある「ZKK 結成文書」には、「先に全国家庭科指導者連盟という名の元に、全国小、中、高、学芸大学の家庭科指導者の結束をいたしました。」とあり、この「全国家庭科指導者連盟」からZKKが結成されています。ZKK設立時から常任理事を務めていた石田千代子らが、創立20周年時、創立当時の事情を回顧し、「日本家政学会では、小学校の先生で、師範学校卒業生は家政学会員になれない規定があるとの事でやむ得ず別に会を作ることになった。」と述べています。この別の会がZKKに当たるわけです。日本家政学会は、この「全国家庭科指導者連盟」が元となって、昭和25(1950)年10月末に発足したと考えられます。右下の初年度会計報告には(ZKK機関誌No4 p7)収入内訳に「指導者連盟より引継」とありました。

終戦後、小中高大の家庭科教育関係者が団結してできた「全国家庭科指導者連盟」が、「日本家政学会」と「全国家庭科教育協会」の2つの組織に分かれたということです。また、この会計報告を見ると、掛図「六つの基礎食品」の販売により会の運営を行っていたことがわかります。今回は、創立当時のZKKの運営などについて紹介していきたいと思えます。

収入		支出	
収入	二七、八九一円	掛図会計より繰入	四四、〇〇〇
会費	六七、九七五円	会報出版並に送費	六〇、五五五
指導者連盟より引継	六、一三二	集金費	一四、四〇二
遠藤副会長芳志	二、〇〇〇	雑費	五〇、九〇九
会報	七、七八四	差引残(次年度繰越し)	五〇、九〇九
掛図会計より繰入	四四、〇〇〇	昭和二十六年三月三十一日	
七六、九八二円		右のとおり報告します	
集金費	六〇、五五五	会計部理事	大津イチエ(零ヶ谷高)
雑費	一四、四〇二	齋藤きよ(深川一中)	
差引残(次年度繰越し)	五〇、九〇九	小林信乃(月島一小)	
昭和二十六年三月三十一日		右のとおり間違いないことを認めます	
右のとおり間違いないことを認めます		昭和二十六年四月四日	
会計部理事	大津イチエ(零ヶ谷高)	検査部理事	武藤チカ(竹ノ台高)
齋藤きよ(深川一中)		事務	チカ(竹ノ台高)
小林信乃(月島一小)			
掛図「六つの基礎食品」特別会計決算			
頒布総数	一一、六九六部		
寄贈その他	一、〇八一		
返品	三、〇一三		
未回収	二八、四〇六		
実費回収総計	五二、五二五		
回収率	八四、二二%		
経費総計	一七、一七〇円		
指導書編集会費等	一一、二〇〇		
協会々計へ繰入金	四四、〇〇〇		
差引(次年度繰越し)	五三、三九八		
取扱	以上		
家庭科刊行社			